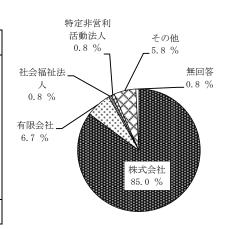
I. 福祉用具事業者のアンケート結果

1. 事業所概要

(1) 法人種別(SA)

法人種別について、最も多いのは「株式会社」(85.0%)、次いで「有限会社」(6.7%)であった。

No	カテゴリ	n	%
1	株式会社	102	85.0
2	有限会社	8	6.7
3	社会福祉法人	1	0.8
4	特定非営利活動法人	1	0.8
5	その他	7	5.8
	無回答	1	0.8
	全体	120	100.0



その他(自由記述)

· 生活協同組合 3件

· 消費生活協同組合 3件

· JA 2件

· 医療法人財団 1件

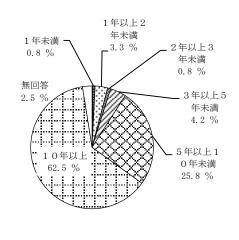
合同会社 1件

合資会社 1件

(2) 福祉用具事業の実施年数(平成27年1月末現在)(SA)

福祉用具事業の実施年数について、最も多いのは「10 年以上」(62.5%)」、次いで「5年以上10年未満」 (25.8%)であった。

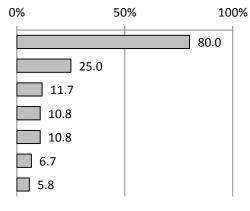
No	カテゴリ	n	%
1	1年未満	1	0.8
2	1年以上2年未満	4	3.3
3	2年以上3年未満	1	0.8
4	3年以上5年未満	5	4.2
5	5年以上10年未満	31	25.8
6	10年以上	75	62.5
	無回答	3	2.5
	全体	120	100.0



(3) 貴事業所の併設サービス(MA)

福祉用具事業所の併設サービスについて、最も多いのは「住宅改修」(80.0%)、次いで「居宅介護支援」(25.0%)であった。

No	カテゴリ	n	%	0%
1	住宅改修	96	80.0	
2	居宅介護支援	30	25.0	25.0
3	訪問介護·訪問看護	14	11.7	11.7
4	その他在宅サービス	13	10.8	10.8
5	施設系サービス	13	10.8	10.8
6	その他	8	6.7	6.7
	無回答	7	5.8	5.8
	全体	120	100.0	



その他(自由記述)

福祉用具貸与・販売 4件
 パソコン教室 2件
 通所介護、通所介護(認知) 1件
 卸業 1件
 調剤薬局 1件

(4) 貴事業所の従業員数(平成27年1月末現在:実数)

従業員数の平均は9.4人、そのうち福祉用具専門相談員は平均6.5人であった。

従業員数

合計	1,027
平均	9.4
分散(n-1)	80.15
標準偏差	8.95
最大値	60
最小値	2
無回答	11
全体	120

うち福祉用具専門相談員

合計	726
平均	6.5
分散(n-1)	27.12
標準偏差	5.21
最大値	26
最小値	1
無回答	8
全体	120

(5) 貴事業所の福祉用具サービスの平成25年度1年間の利用者数

1事業所当たりにおける1年間の「福祉用具貸与」の利用者数(実人数)は平均814.8人、「特定福祉用具販売」は平均163.8人、「福祉用具販売(介護保険外)」は平均179.0人であった。

上記利用者のうち、住宅改修も伴うケースは「福祉用具貸与」の場合平均 75.1 人、「特定福祉用具販売」の場合平均 43.4 人、「福祉用具販売(介護保険外)」の場合 7.2 人であった。

【利用者 実人数】

福祉用具貸与

合計	66,813
平均	814.8
分散(n-1)	1,799,647.21
標準偏差	1,341.51
最大値	8,700
最小値	0
無回答	38
全体	120

特定福祉用具販売

7 = 77		
11,791		
163.8		
65,791.68		
256.50		
1,453		
0		
48		
120		

福祉用具販売(介護保険外)

合計	11,097
平均	179.0
分散(n-1)	78,322.56
標準偏差	279.86
最大値	1,402
最小値	0
無回答	58
全体	120

【利用者 実人数 うち住宅改修も伴う】

福祉用具貸与

合計	6,231
平均	75.1
分散(n-1)	15,391.85
標準偏差	124.06
最大値	900
最小値	0
無回答	37
全体	120

特定福祉用具販売

合計	3,125
平均	43.4
分散(n-1)	5,236.05
標準偏差	72.36
最大値	315
最小値	0
無回答	48
全体	120

福祉用具販売(介護保険外)

合計	440
平均	7.2
分散(n-1)	169.54
標準偏差	13.02
最大値	60
最小値	0
無回答	59
全体	120

1 事業所あたりにおける 1 年間の「福祉用具貸与」の利用者数(述人数)は平均 3,498 人、「特定福祉用具販売」は平均 371.1 人、「福祉用具販売(介護保険外)」は平均 596.1 人であった。

【利用者 延人数(総利用者数)】

福祉用具貸与

合計	234,363
平均	3,498.0
分散(n-1)	16,803,264.64
標準偏差	4,099.18
最大値	15,690
最小値	0
無回答	53
全体	120

特定福祉用具販売

21,892
371.1
1,019,980.18
1,009.94
6,960
0
61
120

福祉用具販売(介護保険外)

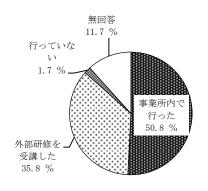
合計	30,402
平均	596.1
分散(n-1)	1,710,254.57
標準偏差	1,307.77
最大値	6,960
最小値	0
無回答	69
全体	120

(6) 平成24年度以降の福祉用具貸与・販売に関する研修実施の有無(SA)

福祉用具貸与・販売に関する研修実施状況について、最も多いのは「事業所内で行った」(50.8%)、次いで「外部研修を受講した」(35.8%)、「行っていない」(1.7%)であった。

9割弱の事業者が、事業所内研修もしくは外部研修を受講している。

No	カテゴリ	n	%
1	事業所内で行った	61	50.8
2	外部研修を受講した	43	35.8
3	行っていない	2	1.7
	無回答	14	11.7
	全体	120	100.0

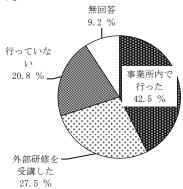


(7) 平成24年度以降の住宅改修に関する研修実施の有無(SA)

住宅改修に関する研修実施状況について、最も多いのは「事業所内で行った」(42.5%)、次いで「外部研修を受講した」(27.5%)、「行っていない」(20.8%)であった。

7割の事業者が、事業所内研修もしくは外部研修を受講している。

No	カテゴリ	n	%
1	事業所内で行った	51	42.5
2	外部研修を受講した	33	27.5
3	行っていない	25	20.8
	無回答	11	9.2
	全体	120	100.0

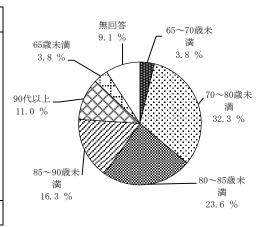


2. 本事例の対象者について伺います。福祉用具あるいは住宅改修導入直前の時点における状況で記載してください。

(1) 年齢(実数)

事例対象者の年齢について、最も多いのは「70~80 歳未満」(32.3%)、次いで「80~85 歳未満」(23.6%)、「85~90 歳未満」(16.3%)であった。

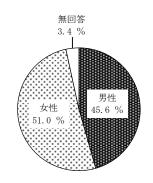
No	カテゴリ	n	%
1	65~70 歳未満	10	3.8
2	70~80 歳未満	85	32.3
3	80~85 歳未満	62	23.6
4	85~90 歳未満	43	16.3
5	90 代以上	29	11.0
6	65 歳未満	10	3.8
	無回答	24	9.1
	全体	263	100.0



(2) 性別(SA)

性別は、「男性」(45.6%)、「女性」(51.0%)であった。

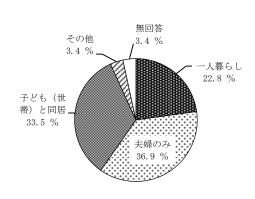
No	カテゴリ	n	%
1	男性	120	45.6
2	女性	134	51.0
	無回答	9	3.4
	全体	263	100.0



(3) 世帯構成(SA)

世帯構成について、最も多いのは「夫婦のみ」(36.9%)、次いで「子ども(世帯)と同居」(33.5%)、「一人暮らし」(22.8%)であった。

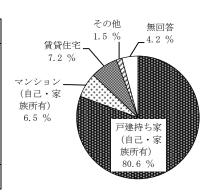
No	カテゴリ	n	%
1	一人暮らし	60	22.8
2	夫婦のみ	97	36.9
3	子ども(世帯)と同居	88	33.5
4	その他	9	3.4
	無回答	9	3.4
	全体	263	100.0



(4) 居住環境(SA)

居住環境について、最も多いのは「戸建持ち家(自己・家族所有)」(80.6%)、次いで「賃貸住宅」(7.2%)、「マンション(自己・家族所有)」(6.5%)であった。「その他」には、「市営住宅」があった。

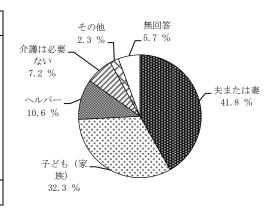
No	カテゴリ	n	%
1	戸建持ち家(自己・家族所有)	212	80.6
2	マンション(自己・家族所有)	17	6.5
3	賃貸住宅	19	7.2
4	その他	4	1.5
	無回答	11	4.2
	全体	263	100.0



(5) 主な介護者(SA)

主な介護者について、最も多いのは「夫または妻」(41.8%)、次いで「子ども(家族)」(32.3%)、「ヘルパー」(10.6%)であった。「その他」には、「妹」、「訪問看護」などがあった。

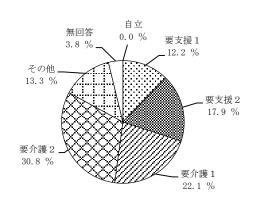
		l	
No	カテゴリ	n	%
1	夫または妻	110	41.8
2	子ども(家族)	85	32.3
3	ヘルパー	28	10.6
4	介護は必要ない	19	7.2
5	その他	6	2.3
	無回答	15	5.7
	全体	263	100.0



(6) 要介護度(SA)

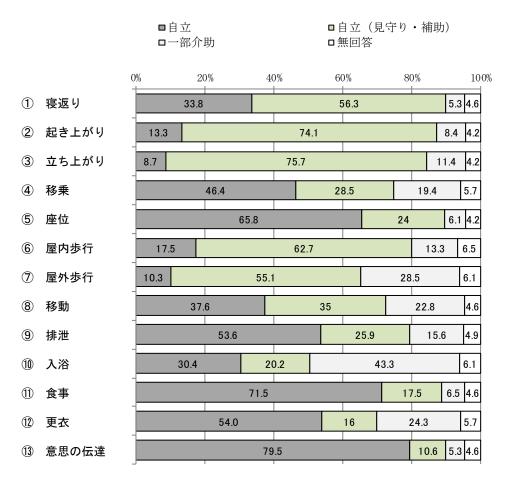
要介護度について、最も多いのは「要介護 2」(30.8%)、次いで「要介護 1」(22.1%)、「要支援 2」(17.9%)であった。「その他」には、「要介護 3」14 件、「要介護 4」9 件、「要介護 5」1 件、「申請中」4 件があった。

No	カテゴリ	n	%
1	自立	-	1
2	要支援1	32	12.2
3	要支援2	47	17.9
4	要介護1	58	22.1
5	要介護2	81	30.8
6	その他	35	13.3
	無回答	10	3.8
	全体	263	100.0



(7) 利用者の状態(SA)

利用者の生活動作について、「一部介助」の割合が最も高いのは「入浴」(43.3%)、次いで「屋外歩行」(28.5%)、「更衣」(24.3%)であった。「自立」の割合が最も高いのは「意志の伝達」(79.5%)、次いで「食事」(71.5%)、「座位」65.8%であった。



① 寝返り

No	カテゴリ	n	%
1	つかまらないでできる	89	33.8
2	何かにつかまればできる	148	56.3
3	一部介助	14	5.3
	無回答	12	4.6
	全体	263	100.0

③ 立ち上がり

No	カテゴリ	n	%
1	つかまらないでできる	23	8.7
2	何かにつかまればできる	199	75.7
3	一部介助	30	11.4
	無回答	11	4.2
	全体	263	100.0

② 起き上がり

No	カテゴリ	n	%
1	つかまらないでできる	35	13.3
2	何かにつかまればできる	195	74.1
3	一部介助	22	8.4
	無回答	11	4.2
	全体	263	100.0

④ 移乗

No	カテゴリ	n	%
1	自立(介助なし)	122	46.4
2	見守り等	75	28.5
3	一部介助	51	19.4
	無回答	15	5.7
	全体	263	100.0

⑤ 座位

No	カテゴリ	n	%
1	できる	173	65.8
2	自分の手で支えればできる	63	24.0
3	支えてもらえればできる	16	6.1
	無回答	11	4.2
	全体	263	100.0

⑦ 屋外歩行

No	カテゴリ	n	%
1	できる	27	10.3
2	自分の手で支えればできる	145	55.1
3	支えてもらえればできる	75	28.5
	無回答	16	6.1
	全体	263	100.0

9 排泄

No	カテゴリ	n	%
1	自立(介助なし)	141	53.6
2	見守り等	68	25.9
3	一部介助	41	15.6
	無回答	13	4.9
	全体	263	100.0

① 食事

No	カテゴリ	n	%
1	自立(介助なし)	188	71.5
2	見守り等	46	17.5
3	一部介助	17	6.5
	無回答	12	4.6
	全体	263	100.0

③ 意思の伝達

No	カテゴリ	n	%
1	自立(介助なし)	209	79.5
2	見守り等	28	10.6
3	一部介助	14	5.3
	無回答	12	4.6
	全体	263	100.0

⑥ 屋内歩行

No	カテゴリ	n	%
1	つかまらないでできる	46	17.5
2	何かにつかまればできる	165	62.7
3	一部介助	35	13.3
	無回答	17	6.5
	全体	263	100.0

⑧ 移動(車いすの使用を含む)

No	カテゴリ	n	%
1	自立(介助なし)	99	37.6
2	見守り等	92	35.0
3	一部介助	60	22.8
	無回答	12	4.6
	全体	263	100.0

⑩ 入浴

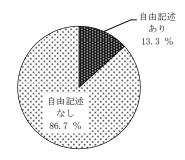
No	カテゴリ	n	%
1	自立(介助なし)	80	30.4
2	見守り等	53	20.2
3	一部介助	114	43.3
	無回答	16	6.1
	全体	263	100.0

⑫ 更衣

No	カテゴリ	n	%
1	自立(介助なし)	142	54.0
2	見守り等	42	16.0
3	一部介助	64	24.3
	無回答	15	5.7
	全体	263	100.0

⑭ 視覚・聴覚(自由記述)

No	カテゴリ	n	%
1	自由記述 あり	35	13.3
2	自由記述 なし	228	86.7
	全体	263	100.0



記述内容

・ 耳が遠い 7件

· 難聴 4件

· 補聴器使用 2件

白内障 2件

· 正常 2件

· 右目失明 1件

· 視力障害 1件

3. 福祉用具導入前・住宅改修前のアセスメント、目標設定、福祉用具導入・住宅改修プランなどについて 伺います。

(8) 利用者本人・家族の要望について教えてください。(MA)

福祉用具導入もしくは住宅改修前の利用者本人・家族の要望について、最も多いのは「転倒等の防止、安全の確保」(82.9%)、次いで「自立した生活の維持」(63.5%)、「利用者の身体的負担の軽減」(57.0%)であった。

No	カテゴリ	n	%	0% 50% 10	00%
1	自立した生活の維持	167	63.5	63.5	1
2	できなかったことをできるようにする	63	24.0	24.0	
3	他の介護サービス利用の減少	10	3.8	3.8	
4	転倒等の防止、安全の確保	218	82.9	82.9	
5	動作の容易性の確保	144	54.8	54.8	
6	利用者の身体的負担の軽減	150	57.0	57.0	
7	利用者の精神的負担の軽減、不安の緩和	78	29.7	29.7	
8	利用者の生活意欲の向上	68	25.9	25.9	
9	介護者の身体的負担の軽減	105	39.9	39.9	
10	介護者の精神的負担の軽減	56	21.3	21.3	
11	その他	4	1.5	1.5	
	無回答	10	3.8	3.8	
	全体	263	100.0		

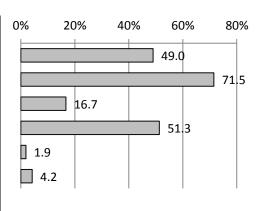
その他(自由記述)

在宅で長く生活したい

(9) 福祉用具導入・住宅改修を検討する際に、特に留意したことはどのようなことですか。(MA)

福祉用具導入・住宅改修を検討する際に特に留意したことについて、最も多いのは「利用者・家族と面談して利用者の希望、心身の状況、及び住環境を調査」(71.5%)、次いで「専門的見地から利用者の状態像や意向等に適した福祉用具・住宅改修を選定」(51.3%)、「利用者の自立支援につながる目標設定」(49.0%)であった。

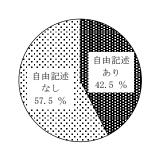
No	カテゴリ	n	%
1	利用者の自立支援につながる目標設定	129	49.0
2	利用者・家族と面談して利用者の希望、 心身の状況、及び住環境を調査	188	71.5
3	ケアプランとの整合性の確保	44	16.7
4	専門的見地から利用者の状態像や意向 等に適した福祉用具・住宅改修を選定	135	51.3
5	その他	5	1.9
	無回答	11	4.2
	全体	263	100.0



その他(自由記述)

- · PTとの医学的情報共有
- ・ 入院先のOTとの連携
- ・ 在宅復帰及び、生活の維持、QOLの確保
- · 介助者の負担軽減
- (10) 上記 9 で選択した項目を実施した結果、問題となった点、あるいは工夫した点があれば、具体的に記述してください。(自由記述)
 - (9) 1.利用者の自立支援につながる目標設定

No	カテゴリ	n	%
1	自由記述 あり	17	42.5
2	自由記述 なし	23	57.5
	全体	40	100.0



問題となった点

・ 要介護1→特殊寝台利用について軽度申請が必要

工夫した点

- ① ヒアリング、状況確認の重視
- ・ 歩行補助のために歩行器を導入。利用環境によってサイズや車輪の選定が必要となるので、そのヒア リングを重視した。
- ・ 改善したい動作や目標を本人から聴取し明確にする事で、本人の意欲も向上し、安全に自立した生活を送ることができる。

・ 入院中(退院間違)のアセスメントだったため、退院後に安全に在宅生活が送れるよう、利用者・家族 の意向や身体の状況を詳しく把握するよう努めた。

② 専門的な選択・提案

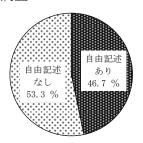
- ・ 利用者様、家族様の要望を含め、専門的な見解を述べる事
- ・ ベッドからトイレまでの安全な動線確保が課題であったが、住宅が賃貸であった事と壁の強度の問題 から工事の実施が困難であった為、貸与用具にて安全な動線確保が行えるような提案を実施した。
- 特に利用者の体の事を考え、福祉用具を選定しました。
- ・ 基本的な動作は問題なく行う事ができるが、リスクの高い階段・浴室・トイレに手すりを設置する事で、 自宅内での生活が安定できた。
- ・ 狭い廊下の移動手段を手すり取付で支援するか、コンパクトな歩行器を使用するかで悩んだが、一時 歩行器レンタル、結果的に手すり取付により、動作がスムーズに行えるようになった。

③ 他職種連携

・ 脳梗塞(右片麻痺・高次脳機能障害…自発低下、注意障害・失行)退院時、後遺症も残存、高次脳機能障害においてもどの程度状態が改善するかは予測がつかない状態であった為、勝手口段差の改修を検討。改善の状況を見極めるため、退院時は両手摺をレンタルで対応、その後(4ヶ月後)状態の改善が見られ(通所リハ、訪問リハ等)たため、PTの助言のもと住宅改修にて踏み台と片手摺取付と2段階で対処する。

(9) 2.利用者・家族と面談して利用者の希望、心身の状況、及び住環境を調査

No	カテゴリ	n	%
1	自由記述 あり	21	46.7
2	自由記述 なし	24	53.3
	全体	45	100.0



問題となった点

• –

工夫した点

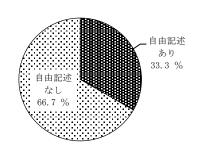
- ① ヒアリング、状況確認の重視
- ・ 心身状況を良く把握するため、退院前に病院を訪問し、面談させていただきました。
- ・ ベッド台らの起居起立動作補助のために手すりを導入。階段を転倒なく安全に移動できるよう、手すり を導入。これらの動作を確認し選定。
- ・ 本人の身体状況をアセスメントシートと照合しながら、本人の希望を第1に調整。
- ・ 利用者本人と家族の要望に違いがあったが、どちらの主張も正しいが、本人の動作メインで調整した こと。
- ・ ご利用者、ご家族とケアマネジャーを含めて面談。身体状況や希望をうかがい、ご家族の気持や意見 もふまえて、目標設定。まずは転倒防止の支援として、家の中の危険な所を見て回り、ご利用者の意 見希望を考慮し手すりの設置と外出時の歩行転倒防止の為、歩行器を検討。
- 入院中の相談だった為、一時外泊時に環境確認を行った。

② デモンストレーション

- ・ ご家族の意向にも配慮し、手すりの設置場所等、幾度とデモンストレーションを行いました。
- ・ 高齢のご夫婦で本人には中程度の認知症もありアセスメント、意向確認に苦慮した。実機を用いた試供、実体験をしてもらう事で身体状況、動作環境等の把握と意向の確認が行えた。
- ③ 家族・介助者側の意見を考慮
- ・ 同居のご主人のご意向確認。別居のご家族への了承をこまめにとること。
- ・ 介助者側の意見も考慮した設置場所の選定

(9) 3.ケアプランとの整合性の確保

No	カテゴリ	n	%
1	自由記述 あり	4	33.3
2	自由記述 なし	8	66.7
	全体	12	100.0



問題となった点

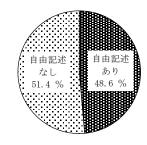
- ・ 相見積先の業者様が、相当安価な金額提示をされていた。施工内容の差は高齢者やケアマネジャー には理解困難な場合が多い。金額のみが先行し、必要なサービス提供が難しい場合がある。
- ・ 専門的に話しをしても、過剰なプランと、とられてしまう。(提案をしただけでも)

工夫した点

- ・ OT、CM、本人、ご家族との現地調査での動作確認から意向に適した計画を立てた。
- 手すりを利用したいとの希望あり、包括と連携をとった。

(9) 4.専門的見地から利用者の状態像や意向等に適した福祉用具・住宅改修を選定

No	カテゴリ	n	%
1	自由記述 あり	17	48.6
2	自由記述 なし	18	51.4
	全体	35	100.0



問題となった点

- 歩行器導入するも押してくれない。
- ・ 屋外での転倒を予防する為、歩行器を提案。しかし1本杖での歩行を希望され、納品にならなかった。
- ・ 室内での転倒を予防する為、四点杖を紹介。家具を使った伝い歩きに慣れており使用しないとの事。 長年の動作に慣れており環境を変えるのは逆に危険との判断をする。

工夫した点

- ・ 玄関の段差で転倒する事が多い。また敷居の段差でつまずく事が多いとの事でレンタルで、玄関手 すりを取付け、住宅改修で敷居の撤去を行う。
- ・ 入院中の方の為、手摺りの取り付け位置が、自宅にて、確認出来ない為、病院に向い、PT、OT、C

Mさんと本人様とリハビリ室にて確認しました。

・ 利用者は、失語症で、意志疎通が困難。認知症の症状もある。家族が同席の上、福祉用具の選定を し、使い方を何度も練習したが、使用方法に問題があり、後日、別のものをデモ対応する。(家族は、 仕事で不在)担当CMに同行してもらい、ゆっくり話しながら、起居動作の順番をしてみせる。利用者 も、同じ様な要領で練習し、納得してもらう。訪問した際、何度も動作の確認を行う。(一緒に横に並び 行う。)

(9) 5.その他

No	カテゴリ	n	%
1	自由記述 あり	ı	1
2	自由記述 なし	-	-
	全体	-	-

問題となった点

• —

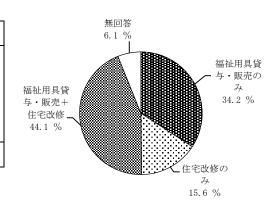
工夫した点

. _

(11) ケアマネジャーはケアプランの中でどのようなサービスを選択しましたか。(SA)

ケアマネジャーが選択したケアプランの中で、最もおおいのは「福祉用具貸与・販売+住宅改修」(44.1%)、次いで「福祉用具貸与・販売のみ」(34.2%)、「住宅改修のみ」(15.6%)であった。

No	カテゴリ	n	%
1	福祉用具貸与・販売のみ	90	34.2
2	住宅改修のみ	41	15.6
3	福祉用具貸与・販売+住宅改修	116	44.1
	無回答	16	6.1
	全体	263	100.0

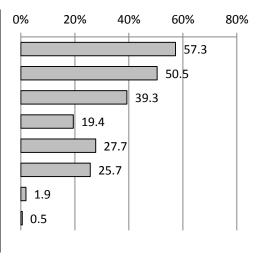


【福祉用具貸与・販売について】

- (12) 福祉用具導入によって、改善しようとした高齢者の生活動作について教えてください。
- ①~⑦について該当する項目すべてに〇をつけ、事例の具体的な動作の問題点について記載してください。(MA)

福祉用具導入によって改善しようとした高齢者の生活動作について、最も多いのは「起居」(57.3%)、次いで「移乗」(50.5%)、「屋内移動」(39.3%)であった。

No	カテゴリ	n	%
1	起居	118	57.3
2	移乗	104	50.5
3	屋内移動	81	39.3
4	排泄	40	19.4
5	入浴	57	27.7
6	屋外移動	53	25.7
7	その他の活動	4	1.9
	無回答	1	0.5
	全体	206	100.0



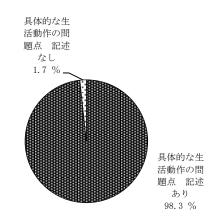
福祉用具導入によって、改善しようとした高齢者の生活動作の問題点

(1)起居

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な動作の問題点 記述 あり	116	98.3
2	具体的な動作の問題点 記述 なし	2	1.7
	全体	118	100.0

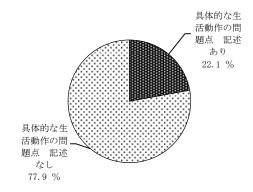
記述内容

ベッドからの起き上がり・立ち上がり
 起き上がり、立ち上がり
 布団からの起き上がり・立ち上がり
 床からの立ち座り
 低いところからの起き上がり、立ち上がり困難
 ・ 転倒予防



(2) 移乗

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な動作の問題点 記述 あり	23	22.1
2	具体的な動作の問題点 記述 なし	81	77.9
	全体	104	100.0

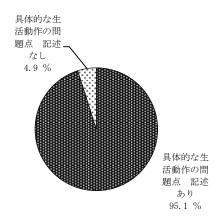


記述内容

- ・ 支えが必要
- ・ 支えが無いと方向転換が不安定
- ・ 筋力低下によって困難
- ・ 転倒リスク、動作の安全性確保。
- 夫にかかえられて移乗
- ・ 立位姿勢の保持が不安。
- · 介助バー設置前→食卓イスに移る事が恐←本人
- · つかまりがないとふらつきがある。
- ・ 片マヒの為転倒リスクがある。
- ・トイレでの立ち座りが不安定なため、トイレ内に手すり工事を行った。

(3) 屋内移動

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な動作の問題点 記述 あり	77	95.1
2	具体的な動作の問題点 記述 なし	4	4.9
	全体	81	100.0



記述内容

・ 歩行困難・不安定・ふらつき
・ 転倒リスク
・ 段差・階段昇降
・ 介護者の負担軽減
22 件
15 件
8 件
1 件

(4) 排泄

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な動作の問題点 記述 あり	39	97.5
2	具体的な動作の問題点 記述 なし	1	2.5
	全体	40	100.0

記述内容

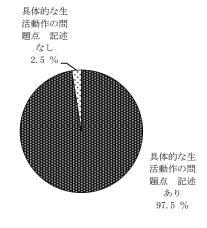
•	立ち座り	9件
•	トイレまでの移動	5件
•	方向転換	1件
•	段差によるつまずき	1件
•	扉の開閉	1件
•	着衣の上げ下ろし	1 件

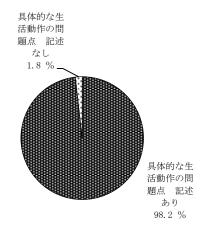
(5)入浴

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な動作の問題点 記述 あり	56	98.2
2	具体的な動作の問題点 記述 なし	1	1.8
	全体	57	100.0

記述内容

•	浴槽のまたぎ	15 件
•	浴室内の動作・立ち座り	12 件
•	転倒リスク	3件
•	浴槽内の立ち座り	1件
•	床面がすべりやすく転倒のリスク	1件
•	段差昇降	1件





(6) 屋外移動

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な動作の問題点 記述 あり	50	94.3
2	具体的な動作の問題点 記述 なし	3	5.7
	全体	53	100.0

記述内容

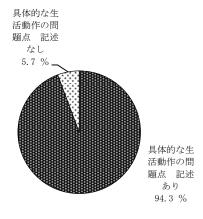
•	歩行困難・不安定	5件
•	階段の昇降	5件
•	長距離の移動	4 件
•	転倒リスク	2 件
•	整地されていない場所での歩行	1 件
•	慣れない場所での歩行	1 件
	介助者の負担軽減	1件

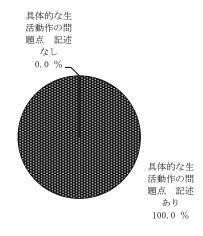
(7) その他の活動

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な動作の問題点 記述 あり	4	100.0
2	具体的な動作の問題点 記述 なし	-	-
	全体	4	100.0

記述内容

• 腰痛予防



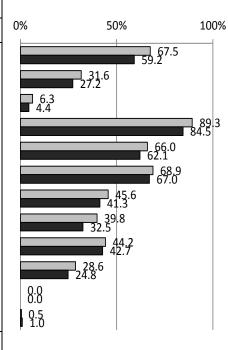


- (13) 福祉用具導入前における目標設定について教えてください。(MA)
- (14) 上記目標について、福祉用具導入後、達成した項目に○をつけてください。(MA)

福祉用具導入前における目標設定について、最も多いのは「転倒等の防止、安全の確保」(89.3%)、次いで「自立した生活の維持」(67.5%)、「利用者の身体的負担の軽減」(68.9%)であった。

また、目標設定に対して、福祉用具導入後、達成した項目で最も多いのは「転倒等の防止、安全の確保」 (84.5%)、次いで「利用者の身体的負担の軽減」(67.0%)、「動作の容易性の確保」(62.1%)であった。

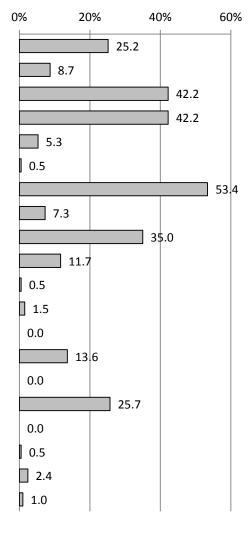
		目標	達成し	目標	達成し
No	カテゴリ	設定	た項目	設定	た項目
		n	n	%	%
1	自立した生活の維持	139	122	67.5	59.2
2	できなかったことをできるようにする	65	56	31.6	27.2
3	他の介護サービス利用の減少	13	9	6.3	4.4
4	転倒等の防止、安全の確保	184	174	89.3	84.5
5	動作の容易性の確保	136	128	66.0	62.1
6	利用者の身体的負担の軽減	142	138	68.9	67.0
7	利用者の精神的負担の軽減、不安 の緩和	94	85	45.6	41.3
8	利用者の生活意欲の向上	82	67	39.8	32.5
9	介護者の身体的負担の軽減	91	88	44.2	42.7
10	介護者の精神的負担の軽減	59	51	28.6	24.8
11	その他	_	-	-	-
	無回答	1	2	0.5	1.0
	全体	206	206	100.0	100.0



(15) 導入した福祉用具に○をつけてください。(MA)

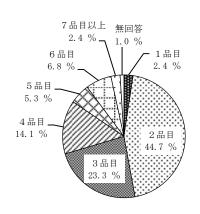
導入した福祉用具で最も多いのは、「手すり」(53.4%)、「特殊寝台」および「特殊寝台付属品」(42.2%)、「歩行器」(35.0)%であった。品目数では「2品目」が最も多く44.7%、次いで「3品目」が23.3%であった。「その他」には、点滴スタンド、すべり止めマット、よべーる100、テープ、補高便座などがあった。

No	カテゴリ	n	%
1	車いす	52	25.2
2	車いす付属品	18	8.7
3	特殊寝台	87	42.2
4	特殊寝台付属品	87	42.2
5	床ずれ防止用具	11	5.3
6	体位変換器	1	0.5
7	手すり	110	53.4
8	スロープ	15	7.3
9	歩行器	72	35.0
10	歩行補助つえ	24	11.7
11	認知症老人徘徊感知機器	1	0.5
12	移動用リフト(つり具の部分を除く)	3	1.5
13	自動排泄処理装置	-	-
14	腰掛便座	28	13.6
15	自動排泄処理装置の交換可能部品	-	-
16	入浴補助用具	53	25.7
17	簡易浴槽	-	-
18	移動用リフトのつり具部分	1	0.5
19	その他	5	2.4
	無回答	2	1.0
	全体	206	100.0



回答した品目数

No	カテゴリ	n	%
1	1品目	5	2.4
2	2品目	92	44.7
3	3品目	48	23.3
4	4品目	29	14.1
5	5品目	11	5.3
6	6品目	14	6.8
7	7品目以上	5	2.4
	無回答	2	1.0
	全体	206	100.0



(16) 福祉用具導入費について教えてください。おおよその金額で結構です。(実数)

導入した福祉用具の費用は、「福祉用具貸与」は平均 12,470 円/月、「特定福祉用具販売」は平均 17,768 円、「福祉用具販売(介護保険外)」は平均 5,127 円であった。

福祉用具貸与(月額)

合計	2,356,965
平均	12,470.7
分散(n-1)	157,715,263.64
標準偏差	12,558.47
最大値	70,000
最小値	0
無回答	17
全体	206

特定福祉用具販売

合計	2,949,420
平均	17,767.6
分散(n-1)	451,146,180.94
標準偏差	21,240.20
最大値	118,000
最小値	0
無回答	40
全体	206

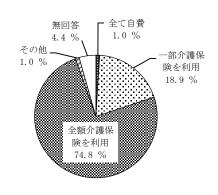
福祉用具販売(介護保険外)

合計	687,000
平均	5,126.9
分散(n-1)	610,424,203.61
標準偏差	24,706.76
最大値	200,000
最小値	0
無回答	72
全体	206

(17) 介護保険の利用について教えてください。(SA)

導入した福祉用具に関する介護保険の利用について、最も多いのは「全額介護保険を利用」(74.8%)、 次いで「一部介護保険を利用」(18.9%)であった。

No	カテゴリ	n	%
1	全て自費	2	1.0
2	一部介護保険を利用	39	18.9
3	全額介護保険を利用	154	74.8
4	その他	2	1.0
	無回答	9	4.4
	全体	206	100.0

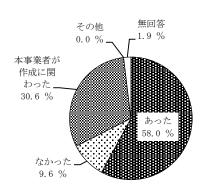


【住宅改修について】

(18)「住宅改修が必要な理由書」を確認する機会はありましたか。(SA)

「住宅改修が必要な理由書」の確認機会について、最も多いのは「あった」(58.0%)、「本事業者が作成に関わった」(30.6%)であった。確認機会が「なかった」のは9.6%であった。

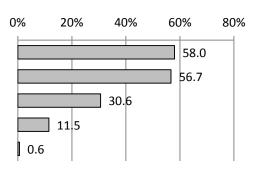
No	カテゴリ	n	%
1	あった	91	58.0
2	なかった	15	9.6
3	本事業者が作成に関わった	48	30.6
4	その他	-	-
	無回答	3	1.9
	全体	157	100.0



- (19) 住宅改修によって、改善しようとした高齢者の生活動作について教えてください。
- (1)~(4)について該当する項目すべてに○をつけ、事例の具体的な動作の問題点について記載してください。(MA)

住宅改修によって改善しようとした高齢者の生活動作について、最も多いのは「排泄」(58.0%)、次いで「入浴」(56.7%)、「外出」(30.6%)であった。

No	カテゴリ	n	%
1	排泄	91	58.0
2	入浴	89	56.7
3	外出	48	30.6
4	その他	18	11.5
	無回答	1	0.6
	全体	157	100.0



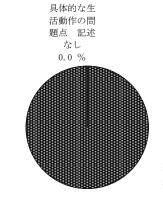
その他(自由記述)

. _

住宅改修によって、改善しようとした高齢者の生活動作

(1) 排泄

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な生活動作の問題点 記述 あり	91	100.0
2	具体的な生活動作の問題点 記述 なし	_	_
	全体	91	100.0



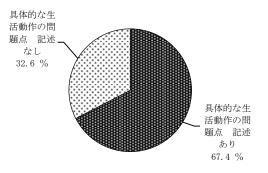
具体的な生活動作の問題点 記述 あり 100.0%

記述内容

便器の立ち座わり動作 27 件 立ち座り動作 12 件 トイレまでの移動 7件 トイレへの出入り(段差など) 2件 トイレ入口開き戸の開閉 3件 段差の昇降 2件 移動 2件 トイレ扉が狭く車いすが入れない 1件 衣類の着脱 1件

(2) 入浴

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な生活動作の問題点 記述 あり	60	67.4
2	具体的な生活動作の問題点 記述 なし	29	32.6
	全体	89	100.0



記述内容

・ 浴槽をまたぐ動作
・ 浴室への出入
・ 転倒防止
・ 浴室での立ち座り
・ 浴槽での立ち座り
・ 漏の開閉によるバランスの崩れ
2 件

(3) 外出

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な生活動作の問題点 記述 あり	47	97.9
2	具体的な生活動作の問題点 記述 なし	1	2.1
	全体	48	100.0

題点 記述 なし 2.1 %

具体的な生 活動作の問

> 具体的な生活動作の問題点 記述 あり 97.9 %

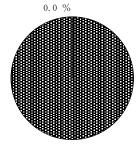
記述内容

•	段差昇降(あがりかまち、玄関先など)	21 件
•	ふらつき・転倒予防	7件
•	外階段の昇降	4件
•	玄関の開閉	1件
•	歩行動作の支え	1件
	長距離移動	1件

(4) その他の活動

No	カテゴリ	n	%
1	具体的な生活動作の問題点 記述 あり	18	100.0
2	具体的な生活動作の問題点 記述 なし	ı	ı
	全体	18	100.0

具体的な生 活動作の問 題点 記述 なし



具体的な生活動作の問題点 記述 あり 100.0 %

記述内容

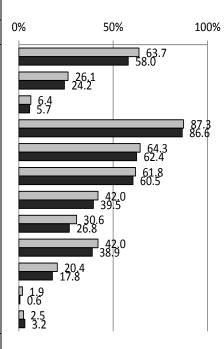
・ 屋内移動・歩行 9件・ ソファーからの立ち上がり 1件

- (20) 住宅改修前における目標設定について教えてください。(MA)
- (21) 上記目標について、住宅改修後、達成した項目に○をつけてください。(MA)

住宅改修前における目標設定について、最も多いのは「転倒等の防止、安全の確保」(87.3%)、次いで「動作の容易性の確保」(64.3%)、「自立した生活の維持」(63.7%)であった。

また、目標設定に対して住宅改修後、達成した項目で最も多いのは「転倒等の防止、安全の確保」(86.6%)、次いで「動作の容易性の確保」(62.4%)、「利用者の身体的負担の軽減」(60.5%)であった。

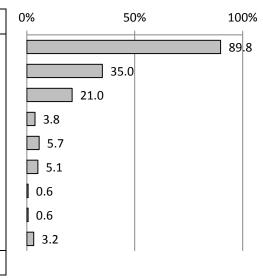
		目標	達成し	目標	達成し
No	カテゴリ	設定	た項目	設定	た項目
		n	n	%	%
1	自立した生活の維持	100	91	63.7	58.0
2	できなかったことをできるようにする	41	38	26.1	24.2
3	他の介護サービス利用の減少	10	9	6.4	5.7
4	転倒等の防止、安全の確保	137	136	87.3	86.6
5	動作の容易性の確保	101	98	64.3	62.4
6	利用者の身体的負担の軽減	97	95	61.8	60.5
7	利用者の精神的負担の軽減、不安 の緩和	66	62	42.0	39.5
8	利用者の生活意欲の向上	48	42	30.6	26.8
9	介護者の身体的負担の軽減	66	61	42.0	38.9
10	介護者の精神的負担の軽減	32	28	20.4	17.8
11	その他	3	1	1.9	0.6
	無回答	4	5	2.5	3.2
	全体	157	157	100.0	100.0



(22) 住宅改修項目について教えてください。(MA)

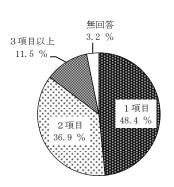
住宅改修項目で最も多いのは、「手すりの取付け」(89.8%)、「段差の解消」(35.0%)、「引き戸等への扉の取替え」(21.0%)であった。項目数では「1項目」が最も多く48.4%、次いで「2項目」が36.9%であった。「その他」には、「踏み台設置」、「浴室改修」があった。

No	カテゴリ	n	%
1	手すりの取付け	141	89.8
2	段差の解消	55	35.0
3	引き戸等への扉の取替え	33	21.0
4	便器の取替え	6	3.8
5	滑り防止等のための床材の変更	9	5.7
6	その他 1	8	5.1
7	その他 2	1	0.6
8	その他 3	1	0.6
	無回答	5	3.2
	全体	157	100.0



回答した項目数

No	カテゴリ	n	%
1	1項目	76	48.4
2	2項目	58	36.9
3	3項目以上	18	11.5
	無回答	5	3.2
	全体	157	100.0



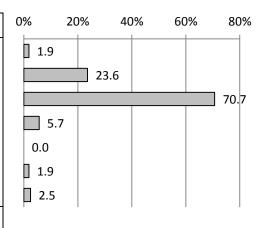
(23) 住宅改修費について教えてください。おおよその金額で結構です。(実数) 住宅改修費用は、平均 22 万円であった。

合計	3,221
平均	22.1
分散(n-1)	1,604.32
標準偏差	40.05
最大値	327
最小値	1
無回答	11
全体	157

(24) 介護保険・助成金の利用について教えてください。(MA)

住宅改修に関する介護保険・助成金の利用について、最も多いのは「全額介護保険を利用」(70.7%)、 次いで「一部介護保険を利用」(23.6%)であった。

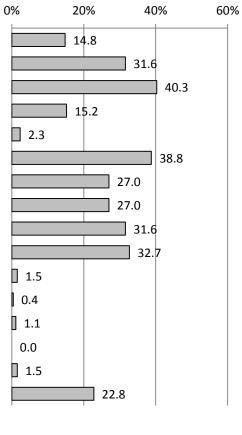
No	カテゴリ	n	%
1	全て自費	3	1.9
2	一部介護保険を利用	37	23.6
3	全額介護保険を利用	111	70.7
4	一部自治体の助成金を利用	9	5.7
5	全額自治体の助成金を利用	_	-
6	その他	3	1.9
	無回答	4	2.5
	全体	157	100.0



- 4. 福祉用具導入もしくは住宅改修後の状況確認などについて伺います。
- (25) 福祉用具導入もしくは住宅改修後、3ページ設問 7 でお答え頂いた利用者の状態で変化(改善)があった項目を教えてください。(MA)

福祉用具導入もしくは住宅改修後の利用者の状態変化(改善)について、最も多いのは「立ち上がり」(40.3%)、次いで「屋内歩行」(38.8%)、「入浴」(32.7%)であった。

No	カテゴリ	n	%	09
1	寝返り	39	14.8	ĺ
2	起き上がり	83	31.6	İ
3	立ち上がり	106	40.3	İ
4	移乗	40	15.2	
5	座位	6	2.3	
6	屋内歩行	102	38.8	
7	屋外歩行	71	27.0	
8	移動	71	27.0	
9	排泄	83	31.6	
10	入浴	86	32.7	
11	食事	4	1.5	
12	更衣	1	0.4	
13	意思の伝達	3	1.1	
14	視覚・聴覚	-	-	
15	その他	4	1.5	
	無回答	60	22.8	
	全体	263	100.0	



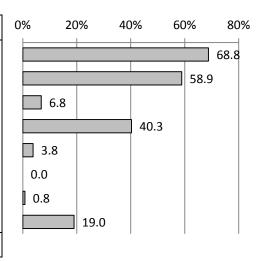
その他(自由記述)

· 意欲向上

(26) 福祉用具導入もしくは住宅改修後、福祉用具専門相談員による状況確認は、どのように行いましたか。(MA)

福祉用具導入もしくは住宅改修後の福祉用具専門相談員による状況確認について、最も多いのは「訪問による本人・家族からの聞き取り」(68.8%)、「訪問による本人の動作の試行確認」(58.9%)、「ケアマネジャーからの聞き取り(報告)」(40.3%)であった。

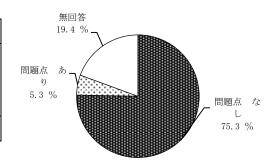
No	カテゴリ	n	%
1	訪問による本人・家族からの聞き取り	181	68.8
2	訪問による本人の動作の試行確認	155	58.9
3	電話等による本人・家族からの聞き取り	18	6.8
4	ケアマネジャーからの聞き取り(報告)	106	40.3
5	福祉用具貸与事業者・住宅改修事業者か らの聞き取り(報告)	10	3.8
6	訪問介護・訪問看護の担当者からの聞き 取り(報告)	-	-
7	その他	2	0.8
	無回答	50	19.0
	全体	263	100.0



その他(自由記述)

- · PT·OTからの聞き取り
- ・ 通所リハPT及び訪問リハPTの情報
- (27) 福祉用具導入もしくは住宅改修後、問題点はありましたか。(SA) 福祉用具導入もしくは住宅改修後の問題点は、「問題点なし」75.3%、「問題点あり」5.3%であった。

No	カテゴリ	n	%
1	問題点 なし	198	75.3
2	問題点 あり	14	5.3
	無回答	51	19.4
	全体	263	100.0



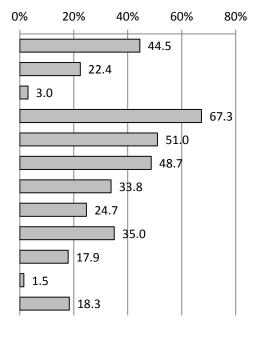
問題点ありの場合の対処法

- ・ 屋外にて利用する歩行器を導入後、利用時に自分の意と反して歩行器が進んでしまうとの問題があったので、速度調整付きの歩行器を納品し対応した。
- ・ 床からの起居動作において、その時々で利用者の使用状況について、問題がある。訪問時に、その 都度使用状況の確認と、使用方法を確認して、説明をする。
- ・ 引き戸に交換し開口を広げたがすべりが良すぎドアのはね返りが見られた為、レールの調整と抵抗を つける。

- ・ ソファーからの立ち上がりがしにくい状況が残ったため、レンタル手すりをソファー横に設置し改善した。
- ・ 特に問題は無かったが、体重増に因り車イスのサイズが合わなくなり座巾42cm変更。
- ・ 車いす利用時に前ずれがおこった。クッションをアンカー付きのクッションへ変更した事で前ずれ予防 をおこないました。(足こぎをする事で少しずつ前ずれ姿勢を引き起こしていた)
- ・ 寝室にベッド設置スペースがなく、一部家具移動を提案、実施。(動線を考えた位置、方向にベッドを設置)
- (28) 福祉用具導入もしくは住宅改修後の利用者本人・家族の評価コメントについて教えてください。 (MA)

福祉用具導入もしくは住宅改修後の利用者本人・家族の評価コメントについて、最も多いのは「転倒等の防止、安全の確保」(67.3%)、次いで「動作の容易性の確保」(51.0%)、「利用者の身体的負担の軽減」(48.7%)であった。

No	カテゴリ	n	%
1	自立した生活の維持	117	44.5
2	できなかったことをできるようにする	59	22.4
3	他の介護サービス利用の減少	8	3.0
4	転倒等の防止、安全の確保	177	67.3
5	動作の容易性の確保	134	51.0
6	利用者の身体的負担の軽減	128	48.7
7	利用者の精神的負担の軽減、不安の緩和	89	33.8
8	利用者の生活意欲の向上	65	24.7
9	介護者の身体的負担の軽減	92	35.0
10	介護者の精神的負担の軽減	47	17.9
11	その他	4	1.5
	無回答	48	18.3
	全体	263	100.0



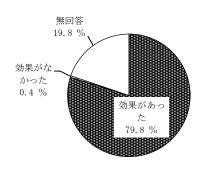
その他(自由記述)

早急な対応で助かった。

- 5. 福祉用具導入もしくは住宅改修後の支援方法について伺います。
- (29) 本事例で自立支援の効果はありましたか。その要因として考えられることをお書きください。 自立支援の効果について、「効果があった」は 79.8%、「効果がなかった」は 0.4%であった。

(SA)

No	カテゴリ	n	%
1	効果があった	210	79.8
2	効果がなかった	1	0.4
	無回答	52	19.8
	全体	263	100.0



自立支援の効果があった要因として考えられること

- ① 福祉用具導入や住宅改修により、動作が楽になり、自分できるようになった (手すり)
- 手すりがついた事で、安心・安全に入浴が、できるようになった。
- ・ 手すり取付けによりトイレでの立ち上がりができる様になった
- 手すりの取付後、トイレまで一人で行く事が可能となった。
- ・ 独居なため、住宅改修で手すりを取付ける事により自立して生活ができる様になった。
- ・ 各所にレンタル、住改で手すりを取り付けることで安心して自宅内での移動、外出が行えるようになった。
- ・ 手摺が有る事によって屋内歩行が安心して出来る様になった。玄関段差も手摺が有る事により安心して外出来、杖によって1人でも外出可能となり、とじこもりの解消につながった。
- ・ マットレス利用で腰が楽になり、玄関に手すりを取付けることで、1人で楽に上がりかまちを昇降できる ようになった。

(ベッド)

- ・ 布団から特殊寝台に変更した事で安全な立ち上がり動作が出来、そこから家具や壁を伝ってトイレや 台所への移動(歩行)が容易になった様です。
- ・ ベッドを導入した事により、腰に負担なく、起き上がり移動が出来る様になった。歩行器を使って屋内 移動、屋外移動が安全に出来る様になった。
- ・ 用具→ベッド等の特殊寝台や車いす導入により起居動作や移動動作が安全に行え身体的負担の軽減につながっている。住改→トイレ・浴室・外階段に手すりを設置したことで本人の身体的負担の軽減や日常動作範囲の拡大につながっている
- ・
 ベッド利用する事で、起居動作が容易にでき、立ち上がりの機会が増え、活動的な生活になった。
- ・ 電動ベットを導入する事により寝返り、起き上り、立ち上がりが非常にスムーズになった。

(歩行器)

- ・ 歩行器の導入がなければ、トイレ、浴室への移動の度に介護者を呼ぶ必要があり、心身の負担となる ケースだった。導入によりそれらの移動が自立できている。
- 歩行器を利用する事により室内での移動がスムーズになった。またベット横に手すりを設置する事に

- よりおきあがりと立ち上がりが楽になった。
- ・ 自力歩行では不安があり、トイレに間に合わず、失敗する事もあったが、歩行器を使用する事で不安 が解消されて、トイレにも行けるようになった。
- 手すりや歩行器を使う事で、安全に自分での移動が可能になった。

(洋式トイレ)

- ・ 和式トイレから洋式腰掛便座となったことで、長時間のトイレ利用時の立ち上がりが、安楽になった。 (福祉用具・住宅改修)
- ・ 居室の環境を変えず、起居動作が楽になったことで不安が緩和され自立した生活が保たれている。
- ・ 福祉用具に因る、環境整と、動線の手スリ改修により、自宅内移動での安心感と起居動作の容易性の 確保で生活に張りが出た。また、ご家族にも安心してもらえた。
- ・ サービスを何も利用しなければ、日常生活全てに見守りや一部介助を要する状態。起居、移動、入浴等、福祉用具の利用により自立でできる部分ができた。
- ・利用者が、自分の事を出来るようになった。安心して、家の中での行動が出来るのが良かった。
- ・ 掴まる場所ができたことで、1人の力で安全に布団からの立ち座りができるようになりました。
- ・ レンタル、住改実施することで自宅内での生活のほぼ全てをご自身で行えるようになった。家事についてもできることが増えた。

② 福祉用具導入や住宅改修により意欲的になった

- ・ 手すり取付・段差解消、手すり・歩行器のレンタルにより、本人が安心して1人で生活が出来き、活動量が増え、精神的なゆとりを持つことが出き、積極的に出歩くようになった
- ・ 退院後、外へ散歩に出かけたいという希望があり、電動補助車いすを導入し、外へ散歩、でかけられるようになり、生活に意欲がでたそうで、症状が安定しているそうです。
- ・ 身体機能の低下や住環境により、閉じこもり傾向にありましたが住宅改修により、外出機会も増え、活動性向上、生活範囲の拡大につながりました。また、希望である、独居生活が継続出来、家族の不安解消にもなっております。
- ・ 住宅改修により外出がしやすくなり、また屋外での歩行器の利用で歩行が安定し、外出機会が増え他 者との交流ができるようになった。また、屋内の移動が負担を軽減して行える為、自分で料理を作る等、 生活意欲が高まった。
- ・ 転倒がこわいので、閉じこもりがちだった利用者が安心して移動できることで、前向きになれ、外出してみようかという気持ちになっています。
- ・ 安全に動ける環境作りで本人の意欲向上がみられ、在宅に戻ってからの方がADLが向上した。
- ・ ご本人が「できる」ことを認識したことで、生きることへの意欲を再び持つことができた。手すり取付けによる住環境が整ったことで、安心を得られたのだと考える。
- ・ 特殊寝台を利用することで、起き上がりが楽に行え、布団中心の生活から、自分で、できることが増え、 生活意欲の向上へと繁った。

③ 転倒予防によって安全確保や精神的負担の軽減につながった

手すりをつけたことにより、立位が安定し、転倒の予防をすることができた。

- 手すりにつかまり、移動することで、安全性が向上した。
- ・ 手すりの設置、開き戸→折れ戸への改修、移動の際の歩行器の導入等、住環境を整備したことで、ご本人の移動の際の安心感を確保できたこと。
- ・ 外階段・廊下・トイレ・風呂に手摺を設置しました。それぞれの設置場所で、安全・スムーズな移動等 が出来るようになった。
- ・ 階段に手すりを取り付けたことにより、動作に対する不安を解消し、安全に移動できるようになった
- ・ 随所に手すりを設置したことで、安全に立ち座り、昇降動作をすることが可能となり、ご本人の転倒の 不安が解消できた
- ・ 主に夜間での転倒を予防して、安心して、寝る事ができた。
- ・ 屋内での転倒を予防する事ができた。それにより利用者の安全と介助者への、転倒に対する精神的 負担が、改善できた。
- ・ 転倒リスクを軽減する事で生活動作が安全に行えるようになり、精神的負担の軽減にも繋がった。
- ・ 屋内・外の移動時の転倒のリスクが大幅に減り、生活・表情も明るくなったとの評価あり。
- ・ 転倒の不安を軽減し、自立して外出出来る様になった。
- ・ 用具活用により身体的負担が軽減し動作姿勢が安定した事で転倒リスクが軽減。転倒不安の軽減により活動性が向上し体力や意欲も向上。

④ 福祉用具導入や住宅改修により、介護負担が軽減した

- ・ Pトイレを導入したことにより、夜間トイレまでいかなくてよくなり、介護者、ご本人の負担が減った。
- ・ 特殊寝台を導入して、昇降機能により、ご家族の身体的負担が軽減した。
- ・ 介護者の負担減は、家族関係にも良い影響を与え本人のやる気が、ADL向上に結びついている。
- 手すりの設置により、安全に立ち上がりが出来るようになり、以前のように困って妻を呼ぶ回数減少。

⑤ 状況確認•他職種連携

- 相談時に本人の希望を細かく聞いた為。
- 本人の生活全般を相談時に把握したことで、環境整備後に安心して動作ができるようになった。
- ・ 本人のニーズや心身状況の把握、住環境の調査に基づき、本人を含めケアマネジャーや各専門職が関わって、適切な福祉用具導入・住宅改修が行えた事が要因。
- ・ ご本人、家族、ケアマネジャー、福祉用具専門相談員(福祉住環境コーディネーター)で、家の中を 見ながら、本人意見を聞いて、環境整備及びプランを行った事。
- ・ 本人、家族、担当ケアマネ、通所リハP・T、訪問リハPTとの連携を取り何が必要かの問題の抽出にあたり、何度か検討の場をもうけ、適切な対処が出来た。
- ・ 退院前に病院内で御本人の動きの確認ができた事と、家屋調査に同席できた事で、医療スタッフ特にリハスタッフと状況確認ができた
- 入院中に相談を受け、入院先の理学療法士と打ち合せて、福祉用具の選定、住宅改修のプランニングを行った。退院前の外泊を行い、問題点の精査を行った。
- ・・独居のため、まず、本人がどうしたいかをメインに要望を聞きながら、進めていった。

(30) 本事例で、福祉用具導入もしくは住宅改修に関わった人はどなたですか。(関わった人すべてに○ を付けてください。そのうち、主担当者1人に◎を付けてください)。

福祉用具導入もしくは住宅改修に関わった人について、最も多いのは「ケアマネジャー」および「福祉用 具専門相談員」(79.1%)、次いで「建築士」(24.7%)であった。「その他」の関与者には、医師、看護士、言 語聴覚士、ソーシャルワーカー、ケースワーカーなどがあった。

主担当は、「福祉用具専門相談員」が最も多く21.3%、次いで「ケアマネジャー」13.7%であった。 関与した職種数は、「3職種」が最も多く34.6%、次いで「2職種」31.9%であった。

関わった人(MA)

No	カテゴリ	n	%
1	ケアマネジャー	208	79.1
2	福祉用具専門相談員	208	79.1
3	建築士	65	24.7
4	建築施工者	44	16.7
5	理学療法士•作業療法士	41	15.6
6	その他	20	7.6
	無回答	46	17.5
	全体	263	100.0

主担当者(SA)

No	カテゴリ	n	%
1	ケアマネジャー	36	13.7
2	福祉用具専門相談員	56	21.3
3	建築士	1	0.4
4	建築施工者	-	-
5	理学療法士・作業療法士	-	-
6	その他	-	-
	無回答	170	64.6
	全体	263	100.0

主担当を含む関わった職種の数

No	カテゴリ	n	%
1	1職種	9	3.4
2	2職種	84	31.9
3	3職種	91	34.6
4	4職種以上	33	12.5
	無回答	46	17.5
	全体	263	100.0

- (31) 本事例を通して、見つかった課題があれば教えてください。(自由記述)
- ① 職種間連携
- 各サービスと密に連携をとる必要がある。
- ・ 各担当者が専門知識を持ち寄って、理想の在宅生活が可能になりましたが、全ての案件でこの体制でサービスにあたれているかというと、そうではないと感じました。今後はより専門的な知識と各サービス間の密なる連携が必要になってくると思います。
- 回腹期医療機関と福祉用具事業所との連携
- ② 退院時の対応

- ・ HP5の退院について、退院期日が決まっているにもかかわらず、HP側の都合で相談日程を決められてしまう。内容によっては退院までに対応できない。(主に住宅改修)
- 入院中で退院日までの日数が、少なく、調整が大変でした。
- ・ 退院前の為、本人不在のまま、住環境をすすめた為、出来るならば、本人と立ち会いの元プランを決めたかった。

③ 利用者の意向

- ・ 利用者の住環境を変える事は、逆に危険を伴う事がある。利用者は、それなりに転倒を予防する為に 考え工夫している方もいるので尊重しなければならない。
- ・ ご利用者の身体的・精神的な状態を踏まえた上で顔の表情で意向を組み取り、身振りや、動作を、してみせる事で、意志の疎通を図る。という事。

④ 適切なプランニング

- ・ 依頼に対してそのまま対応するのでは無く危険な動作にならないかの検討が重要。
- ・ 賃貸や家屋環境(老朽)により住宅改修が行えない中での安全な動線を確保する為の適切な福祉用 具選定知識の必要性。老々介護時の適切な特殊寝台の活用方法の難しさ。→モニタリング時に足上 げが有効に利用できていなかった事が判明した。
- ・ 利用者様の生活に対する負担を軽減することで、心理的な負担(生きることへの絶望感)を和らげる効果もあることを感じた(逆の事もありえるため、用具支援の重要性を痛感した)。

⑤ 公的補助

・ 介護保険のみの利用での在宅複帰には限りがあり、ご家族、ご本人の費用負担の了承の元成功事倒があると思われます。現状、最少の費用で最大の効果や、結果を得づらいのでは?在宅復帰への公的補助が必要と思われる。又医療のおしつけではない提案が必要では?

⑥ その他

独居の方に対する支援のあり方。

※ 回答者の所持資格

No	カテゴリ	n	%
1	主任介護支援専門員	157	59.7
2	福祉用具専門相談員	40	15.2
3	福祉用具プランナー	91	34.6
4	福祉住環境コーディネーター	4	1.5
5	増改築相談員	7	2.7
6	建築士	-	-
7	理学療法士	_	_
8	作業療法士	12	4.6
9	その他	24	9.1
	無回答	95	36.1
	全体	263	100.0

